関東中学生軟式野球クラブチーム

・ジュニアリーグ

春季大会・秋季大会

資料

2026 年 2 月改定

“礼儀作法マナー・良識ある指導モラルを大切に”

私たち社会活動が、日本の未来に貢献できることを信じて！

関東中学生軟式野球クラブチーム・ジュニアリーグ

関東中学生軟式野球クラブチーム・ジュニアリーグ大会要綱

1.大会名称　関東中学生軟式野球クラブチーム・ジュニアリーグ関東大会

2.大会目的　本大会は、関東における中学生軟式野球クラブチームが大会を通して中学生同士の交流・親睦を図り、行儀作法と野球技術の向上に寄与し、中学生軟式野球クラブチームの発展に貢献することを目的とする。

3.主催　NBJ 全日本軟式野球ジュニアリーグ
関東支部　関東中学生軟式野球クラブチーム・ジュニアリーグ

4.主管　グランド提供地区とする。

5.後援　京急開発株式会社

6.協賛　ナガセケンコー株式会社

7.会期　◆前期（春季大会）：３年生中心のレギュラーチーム
参加全チームによるトーナメント大会とする（年初総会時に抽選会を行う）
１回戦は３月中・２回戦は４月中・３回戦は５月中・４回戦は６月中に行う。
準決勝・決勝は７月中に行う。
１回戦から対戦相手と日程調整を行い、グランドを確保して進行して下さい。
２回戦以降も同様に勝者同士が連絡を取り合って順次進行して下さい。
※勝者チームは必ず本部へ連絡し、問題があれば指示を仰いて下さい。

◆後期（秋季大会）：２年生以下のチーム
〇予選リーグ：抽選により、3～4 チームのブロックに分けて予選リーグを行う。
10 月末までに終了のこと。
各ブロックごとにチーム間で球場を確保して試合を行い順位を決める。
〇決勝トーナメント大会：予選リーグのブロック１位（４チームブロックの場合は１位・２位）チームの抽選会により、決勝トーナメント大会を行う。
11 月～12 月上旬までに行うこととする。

尚、秋季大会に於いて優勝チームは全日本中学生軟式野球クラブチーム選抜大会(滋賀県琵琶湖開催）へ出場できる。

但し、参加できるチームは、中学校の部活動野球部に二重登録されていない選手で構成されているクラブチームとする。

上位チームの東京都最大２チーム、神奈川県最大２チーム、埼玉・群馬・栃木で１チームの参加枠を認める。参加できない場合は、順次つぎのチームに権利を与える。

8.参加資格　大会目的に賛同したチームとする（部活動野球部との二重登録は認めない）。

9.参加費　春季大会：3,000 円　秋季大会：予選ブロック 2,000 円／決勝トーナメント 3,000 円

10.チーム構成　代表１名・マネージャー1 名・監督１名・コーチ２名・スコアラー1 名・選手中学生 10 名以上 25 名以内とする。
（選手登録は行わず試合毎にメンバー表にて確認する）（2024 年変更）

11.競技規則　財）全国軟式野球連盟、公認野球規則、及び大会運営規定による。

12.審判帯同　各チームは審判員原則２名帯同のこと（準決勝・決勝は本部手配とする）。

13.大会使用球　全軟連使用球（ナガセケンコー軟式Ｍ号）。

14.大会規定　別紙添付。

大会運営規定・競技上及び審判上の注意事項

1. ベンチは組合せ番号の若い方を１塁側とし、先攻・後攻は球審・監督立会の下、主将のジャンケンで決める。
2. 試合は７回戦とし、１時間３０分を過ぎて新しいイニングに入らない。（2020 年変更）
3. 投球制限、投手の投球回数は１日当たり 100 球までとし、これを超える場合は投手を交代しなければならない。
   但し、100 球になった際の打者の打席が終わるまでは投球可能とする。イニングチェックで差異がある場合は少ない方を採用する。
   １日当たり 100 球を越えなければ、１試合の中で再登板は可能とし、また２試合にまたがって投球することを可とする。特別延長も含めて 100 球以内とする。
4. **指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。（2026 年変更）**
   ＊　詳細は全日本軟式野球連盟　競技者必携に準ずる。
5. 予選リーグ（秋季）
   ＊ 皆さんのご意見によりまた運営上不都合があり引き分け方式を廃止し、下記のとおり変更しました。
   5.1　参加チームを３～４チームにブロック分けし、期間内に総当たり戦を行いブロック内の順位を決める。
   5.2　７回終了時または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイゲームとして正式試合を打ち切り、特別方式を適用し試合を続行する。特別方式は最大２イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。
   ≪タイブレーク≫
   特別方式は正式試合終了時からの継続打順とし、前回の最終打者を１塁走者として、２塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死１・２塁の状態にして試合を行う。（2020 年変更）
   5.3　１位チーム（予選４チームブロックの場合は１位・2 位）が決勝トーナメントへ進出できる。
   5.4　予選リーグにおいてもコールドゲームを適用する。４回終了時１０点・５回以降７点とする。（2020 年変更）
   5.5　予選リーグの順位の決め方
   (ア) 勝利数の多いチームを上位とする。
   (イ) 勝利数が同じ場合は、敗戦数の少ないチームを上位とする。
   (ウ) 敗戦数も同じ場合は、当該チーム同士の勝ったチームを上位とする。
   (エ) ウでも同じ場合は、総失点の少ないチームを上位とする。(特別延長戦の点数はカウントしない)
   (オ) エでも同じ場合は、得点数の多いチームを上位とする。(特別延長戦の点数はカウントしない)
   (カ) オでも同じ場合は、抽選とする。
   5.6　審判は当該チームの出し合いとし、球審は当事者同士の話し合いとする。
6. トーナメント大会
   6.1　春季は全チームによるトーナメント大会とする。
   秋季は予選リーグの１位チーム（予選４チームブロックの場合は１位・２位）によるトーナメント大会を行う。
   6.2　春季・秋季のトーナメント大会の組合せは抽選によって決める。

6.3　試合は７回戦とし、１時間 30 分を過ぎて新しいイニングに入らない事とする。（2020 年変更）
ただし、都連方式で勝ち逃げありとする。内野ボール回しは認める。（2018 年変更）

6.4　トーナメント大会においても得点差によるコールドゲームを適用する。4 回終了時 10 点差・5 回以降７点差とする。（2020 年変更）

6.5　７回終了時または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイゲームとして正式試合を打ち切り、特別方式を適用し試合を続行する。特別方式は最大２イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。

≪タイブレーク≫

特別方式は正式試合終了時からの継続打順とし、前回の最終打者を１塁走者として、２塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死１・２塁の状態にして試合を行う。（2020 年変更）

6.6　トーナメント大会はその試合の前後のチーム、又は当該チームの出し合いとする。準決勝・決勝は本部から派遣する。

7. 雨天・日没などによる正式試合の成立は５回終了時とする。但し、後攻のチームの得点が多い場合は５回表までとする。
8. 監督・コーチ・選手は必ず背番号を付けること。監督 30 番、コーチ 29・28 番、選手 0～99 番とする。但し、主将は 10 番とする。
9. 試合は選手 10 名以上、ベンチに入れる選手は 25 名以内とする。（2024 年変更）
10. 監督に限りグランド内に入って選手に指示などできる。
11. 抗議ができるものは、監督と当該選手とする。
12. 危険防止のため選手の各用具はＪＳＢＢ公認のものを着用または使用しなければならない。
13. キャッチャー用具・ヘルメットは硬式耐用のものでもよい。
14. バットは投手の安全を確保するため、また、試合会場による不公平を排除するため、複合バットの使用は不可とし、金属または木製の単一素材のバットのみ使用可とする。
カーボン・FRP 製のバットは内部構造が複合化されていることが多く、個々の商品毎に確認が難しいため『疑わしきは使用不可』の考えの下、使用は不可とする。（2025 年変更）
15. 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・マスク・ファウルカップを必ず着用のこと。
16. 打者・次打者・走者・ランナーコーチ・は、両側にイヤーフラップの付いたヘルメットを着用すること。
17. 大会期間中は、各チーム１～2 名の帯同審判員を派遣すること。
18. 大会運営は、各年度全軟連公認野球規則・競技者必携・当リーグ大会運営規定に準じて行う。
また、試合時は大会要綱・運営規定を印刷し、野球規則・競技者必携と共にベンチ内に携行すること。（2025 年変更）
19. 試合中または球場への往復の事故などについては、主催者は一切責任は持ちませんので、ご注意の上参加して下さい。各チームは必ずスポーツ保険に加入して下さい。
20. 各チームは球場内・外に限らず整理・整頓・清掃を心掛け、ゴミなどは必ずお持ち帰り下さい。

以上